

2019年4月5日

各位

会社名 ライフネット生命保険株式会社
 代表者名 代表取締役社長 森 亮介
 (証券コード:7157 東証マザーズ)

一般社団法人がんサーパーペアレンツ×ライフネット生命保険共同調査 「子育て世代のがん患者における教育費に関する調査」

2人に1人が「自身のがん罹患によって、子どもの教育計画に影響があった・今後ある」と回答

ライフネット生命保険株式会社 (URL: <https://www.lifenet-seimei.co.jp/>) 本社: 東京都千代田区、代表取締役社長: 森亮介) は、一般社団法人がんサーパーペアレンツ (URL: <https://cancer-parents.org/>) 代表理事: 西口洋平) と共同で、子育て世代のがん患者 398 名にアンケート調査を実施しましたので、その調査結果をお知らせします。

本調査は、「ご自身ががんに罹患したことで、その後のお子さまの教育計画にどのような影響が生じたのか」「お子さまの今後の教育にどのような不安を持たれているのか」などについて、子どもをもつがん患者のためのコミュニティサービス「がんサーパーペアレンツ」を運営している一般社団法人がんサーパーペアレンツの協力を得て調査したものです。

■一般社団法人がんサーパーペアレンツ 代表理事 西口洋平氏コメント



がんに罹患すると、治療費はかかる一方で、仕事は制限され収入が減ります。そして、子どもがいると教育費も必要です。大変な状況はなんとなく想像できるものの、もう少し実態がわかることで、現在闘病中の方へのヒントになったり、社会的な支援につながるきっかけになればという思いで、がんサーパーペアレンツ会員の方(子育て世代のがん患者さん)を対象に、今回の調査を実施しました。

私自身も、2015年2月にがん告知を受け、今後、娘が小学生から中学生、高校生となることを考えると、教育費への不安は常にあります。また、がんに罹患し、翌年の収入が半分になったこともあり、親の援助なしでは今の生活はありません。私と同じような経験を、多くの方が経験しているということがわかりました。そしてその中で、様々な葛藤や思いがあることも理解できました。

すぐに何かの解決につながるわけではありませんが、こうした課題を多くのがん患者さんが持っていることや、置かれている状況を理解いただき、がんへの理解を少しでも深めていただきたいと考えています。それが、解決への一歩につながります。ぜひ、自分ががんになったらどうする? という視点を持って、結果を見ていただければ幸いです。

■■調査概要■■

- 調査タイトル: 一般社団法人がんサーパーペアレンツ×ライフネット生命保険共同調査
「子育て世代のがん患者における教育費に関する調査」
- 調査対象: がんサーパーペアレンツの会員(子どもをもつがん患者)
- 有効回答: 398名
- 調査方法: インターネット調査(がんサーパーペアレンツ『がんサーパーベイ』を利用)
- 調査実施時期: 2019年1月

主な調査結果

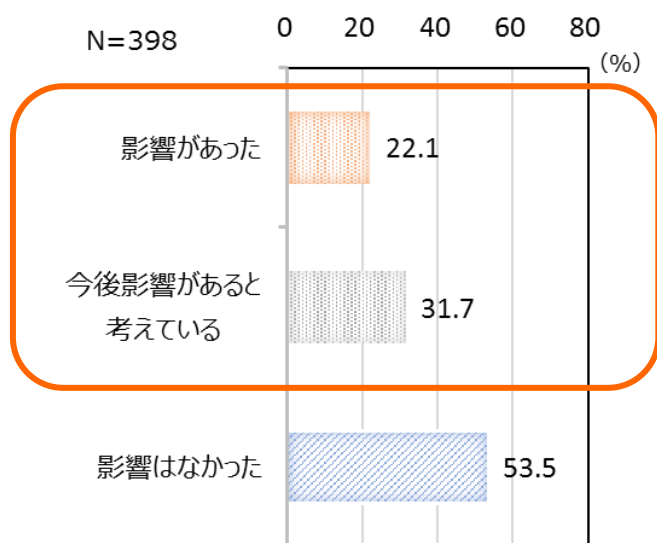
～ がん罹患による、子どもの教育計画への影響 ～

■ 2人に1人が「がん罹患によって、子どもの教育計画に影響があった・今後ある」と回答

- ◆ がん罹患したことが子どもの教育計画に「影響があった」22.1%
- ◆ 「今後影響があると考えている」31.7%
- ◆ 「影響があった／あると考えている」子どもの年齢は「13歳以上 18歳以下」が最多

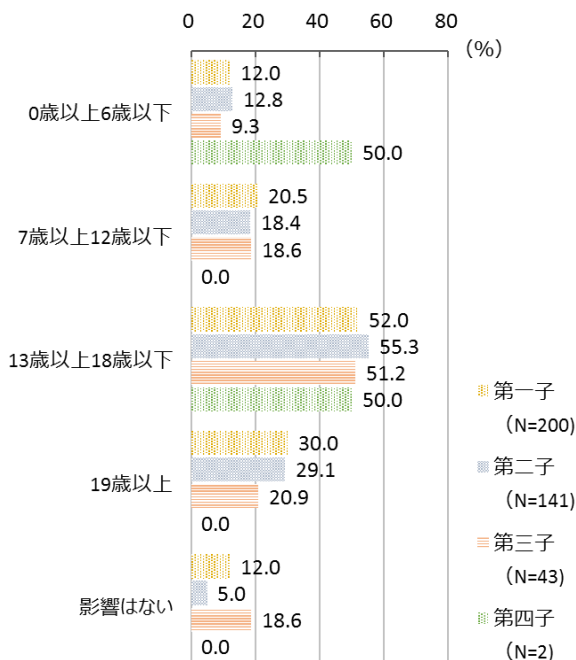
まず、お子さまをもつがん患者 398 名に、「ご自身ががんに罹患したことで、その後の子どもの教育計画に影響があったか(今後影響があると考えているのか)」について質問をしたところ、「影響があった」が 22.1%、「今後影響があると考えている」が 31.7%という結果となりました。

Q. がん罹患したことで、子どもの進路など教育計画に影響はあったかどうか(複数回答)



続いて、「影響があった／あると考えている」お子さまの年齢について見てみると、「13歳以上 18歳以下」がもっとも高く、中学生から高校生のお子さまへの影響が多い傾向がうかがえます。

Q. 影響があった(または今後影響があると考えている)のは、いつ頃か(複数回答)



ライフネット生命保険株式会社

では、具体的にどのような影響があったのでしょうか。今回の調査では多くの方に、フリーコメントで実際のエピソードを回答いただきました。その一部を抜粋してご紹介します。

Q.具体的にどのような影響があったか

性別	年齢	回答
男性	35 歳	生活費が足りないため、 学習塾を辞めさせた
女性	48 歳	勉強に専念していた長女にアルバイトを始めてもらった。 次女の受験を諦めさせた
女性	40 歳	習い事を辞めさせた。またやりたいと言うがお金がない。 友人たちと一緒に習い事したいがお金がない。将来は不安だらけ
女性	52 歳	都立高校を受験させ、予備校も行かせず、 学費保険を中途解約して治療費に充てた
女性	44 歳	私学に通学中であったが、学費の関係で転学。 4年生大学を進学希望であったが、進路変更を考えさせている
女性	36 歳	私の体調により、送迎が困難と判断し、その時に始めようとしていた習い事を諦めさせた
女性	39 歳	経済的に余裕のない空気を感じさせ、子どもから言い出しにくい雰囲気だったかもしれない
女性	36 歳	学校の親子イベントに参加できなかった。 子どもが自分のしたいことなどを抑えていたのがわかった
男性	42 歳	自分の告知を機に、娘が重度の摂食障害になり入院した。 進学どころではなくなってしまった
女性	41 歳	がんにならなければ、パートから正社員へと考えていた時期でした。手術、抗がん剤治療の期間が長かったため、正社員で働くことは諦めました。 子どもの大学進学については、自宅から通える範囲の公立校を目指してもえるようにと、話をしました。塾にも通っていません

合わせて、「子どもの進路など教育計画に今後影響があると考えていることや不安なこと」についても回答いただきました。その一部を抜粋してご紹介します。

Q.子どもの進路など教育計画に今後影響があると考えていることや不安なこと

性別	年齢	回答
女性	41歳	第1子、第2子の大学進学、第3子の高校進学が重なる時期の教育費の不安。 貯蓄では賅えず、働いて収入を増やさなければならないが、自分の体調が働ける ところまで戻るか不安
女性	41歳	休職したことで復職後も仕事が戻ってこなかったのが、残念だが退職すること となりました。今後の教育費が1番悩ましい問題である
女性	42歳	今後、再発などして働けなくなった場合、子どもが、やりたいことを我慢してし まうのではないかと不安
女性	42歳	三番目の子が今年中3になるが、進路を通信にして、バイトしながら、通信の費 用を自分で稼ごうと考えていると言っていた。やりたいことがあるからとは言っ ているが、本当は普通に高校行きたいのでは？
男性	41歳	子どもが高校生になったら、学費の支払いなどが不安です
女性	45歳	塾に入れてあげられない。高校や大学進学時に私立は難しいと考えている
女性	46歳	大学院に行きたいと言われたら、いいよと中々言えない
女性	32歳	今後の治療費や通院費にどれくらいお金がかかるかわからず、子どものために十 分な貯金ができるかどうか不安
女性	36歳	公園デビューや、児童館に連れていけない。保育園にも入らないので、人との コミュニケーション能力に影響しないか懸念がある

他にも多くのコメントをお寄せいただいております。すべてのコメントを下記の詳細レポートに掲載して
います。アンケートにご協力いただいたがん患者皆さまの、親としてのお子さまへの想いを多数掲載して
いますので、ぜひご覧ください。

▼子育て世代のがん患者における教育費に関する調査 詳細レポート

URL: <http://bit.ly/2JTKeXE>

～ がん罹患による、金銭面の工面 ～

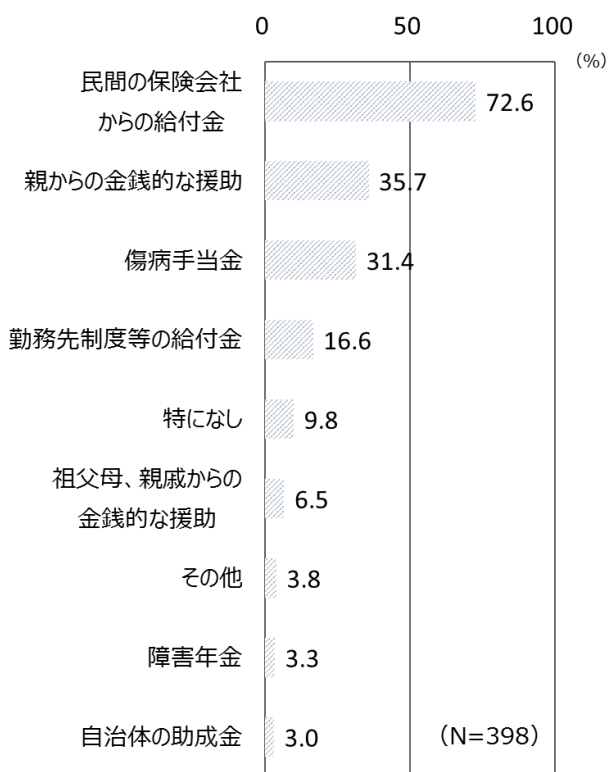
■ 民間や公的な給付だけでなく、「親」や「祖父母・親戚」など身内からのサポートも

- ◆ 3人に1人が「親からの金銭的なサポートがあった」
- ◆ サポートがあった人のうち、「親から100万円以上の援助を受けた」45%
- ◆ がん罹患による「奨学金」「教育ローン」の利用は限定的

前述のように、がん罹患により、経済的な理由からお子さまの教育計画に影響が生じてしまった実例もある中で、どのように金銭的な工面を行っているのでしょうか。

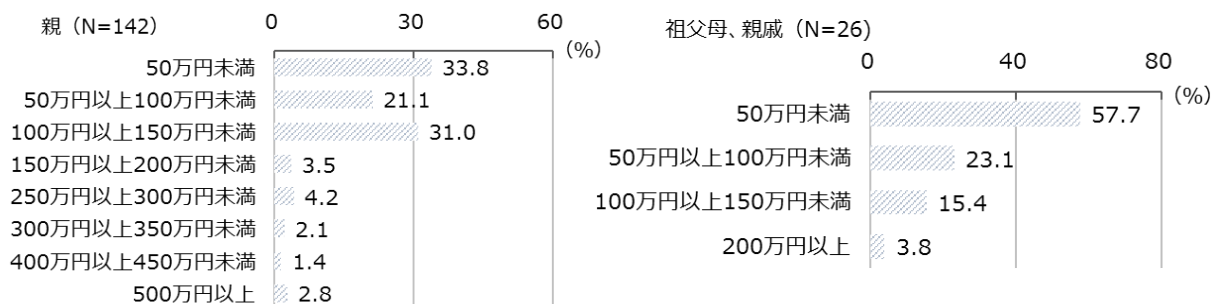
まず、「がんに罹患したことで金銭面の支援を受けたもの」について質問をしたところ、「民間の保険会社からの給付金」が72.6%と最も高く、次いで「親からの金銭的な援助」が35.7%、「傷病手当金」が31.4%という結果となりました。民間や公的な給付だけでなく、「親」や「祖父母・親戚」など身内からの金銭的なサポートも一定量あることがわかりました。

Q. がんに罹患したことで、金銭面の支援を受けたもの(複数回答)



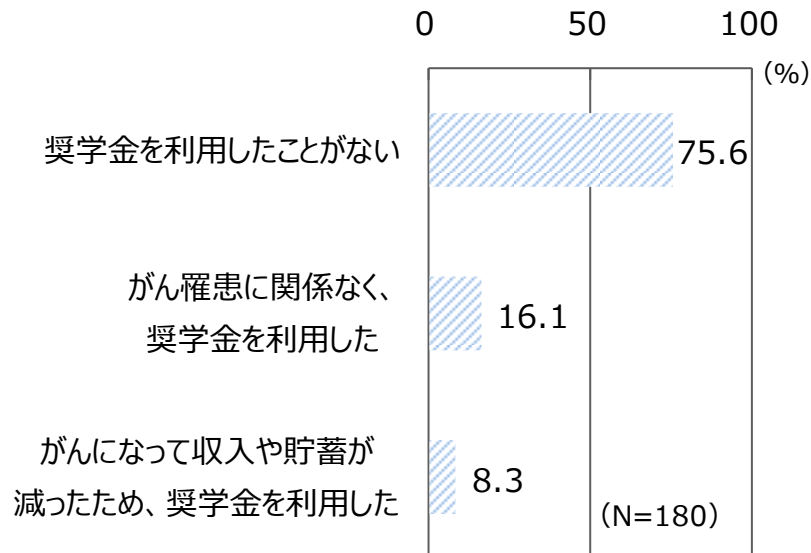
では、「親」や「祖父母・親戚」などの身内から、どれくらいの金銭的なサポートがあったのでしょうか。結果は下記のとおり、「親」から金銭的なサポートがあったと回答した人のうち、100万円以上の援助を受けている人の割合は45%におよびました。

Q. がんに罹患したことで、金銭面の支援を受けた金額



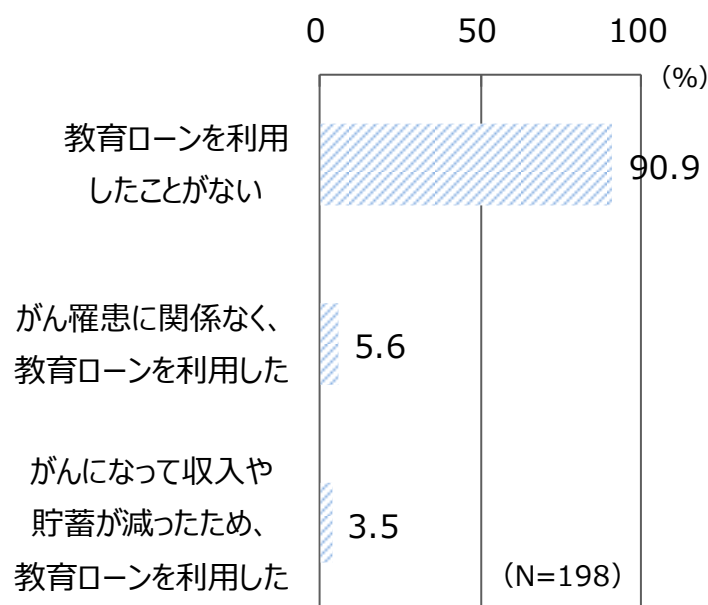
続いて、「奨学金」「教育ローン」の利用経験について対象者に聞いたところ、「がんになって収入や貯蓄が減ったため、奨学金を利用した」は 8.3%、「がんになって収入や貯蓄が減ったため、教育ローンを利用した」が 3.5%という結果となりました。

Q. がんに罹患したことが理由で、子どもが奨学金を利用した経験があるかどうか(単一回答)



※「子どもがまだ奨学金を利用する年齢ではない」以外の回答者

Q. がんに罹患したことが理由で、子どもが教育ローンを利用した経験があるかどうか(単一回答)



※「子どもがまだ教育ローンを利用する年齢ではない」以外の回答者

前述の調査結果以外にも、さまざまな切り口でアンケート調査を実施し、すべての調査結果は下記の詳細レポートに掲載しています。

▼子育て世代のがん患者における教育費に関する調査 詳細レポート

URL: <http://bit.ly/2JTKeXE>

本調査結果が、個人や企業ががん経験者への理解を深めるきっかけとなり、がん経験者およびそのご家族の皆さまにとって、より暮らしやすい、より働きやすい社会を創出するための一助になればうれしく思います。

一般社団法人キャンサーペアレンツについて URL: <https://cancer-parents.org/>

2015年2月、代表の西口がステージ4の胆管がんの告知を受けました。当時、一人娘は6歳。がんのことを伝えるべきか、どのように伝えれば良いか悩むものの、相談できる同世代のがん体験者は周囲にはいませんでした。そこで、子どもをもつがん患者でつながるコミュニティサイトを2016年4月に立ち上げました。それが「キャンサーペアレンツ～子どもをもつがん患者でつながろう～」(cancer-parents.com)です。立ち上げて3年が経過し、会員数は3,000名を超えました。今後も、子育て世代、働く世代のがん患者の声を社会へ発信し、がんになっても生きていきやすい社会を目指します。

ライフネット生命について URL: <https://www.lifenet-seimei.co.jp/>

ライフネット生命保険は、「正直に経営し、わかりやすく、安くて便利な商品・サービスを提供することで、お客さま一人ひとりの生き方を応援する」という経営理念のもと、インターネットを主な販売チャネルとする生命保険会社です。徹底した情報開示やメール・電話・チャットでの保険相談などを通じて、お客さまに「比較し、理解し、納得して」ご契約いただく透明性の高い生命保険の選び方を推奨するとともに、オンライン生保市場の拡大を牽引するリーディングカンパニーを目指します。

会社及び商品の詳細は <https://www.lifenet-seimei.co.jp/> をご覧ください。
株主・投資家向けの情報は <https://ir.lifenet-seimei.co.jp/ja/> をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先
03-5216-7900(広報: 関谷 / IR: 加藤)